

2 エッセイ／“おかね”を語る

私は銀行というものがあまり好きではない 作家 大崎善生



4 インタビュー／扉を開く

江戸の文化と心を伝える 東京都江戸東京博物館館長 竹内 誠

9 地域の底力——東北特集

東日本大震災からの復興へと立ち上がる東北のまちを訪ねて

岩手県遠野市 進取の気風を持った『遠野物語』のまちの人々が活躍した被災地支援

宮城県気仙沼市 海と生きる気仙沼で大震災からの復興に取り組む人々を追って

福島県いわき市 地域に息づく「一山一家」の精神で復興に挑むいわき市を訪ねて



26 対談／守・破・創

わが国の金融資本市場の発展に向けてさまざまな取り組みが必要

日本証券業協会会長 前 哲夫

日本銀行政策委員会審議委員 白井さゆり



30 FOCUS → BOJ ④ 日本銀行金融研究所アーカイブの活動

歴史的資料の価値を未来に届ける

34 日本銀行のレポートから

「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2012年4月—

「金融システムレポート」—2012年4月—

42 トピックス

43 AIR MAIL from WASHINGTON D.C.

政治の街ワシントンD.C.とKストリート



表紙のことば

下関支店は、戦後の事務量増加を受け、山口県全域を管轄する目的で昭和二十二年(一九四七)十二月一日、日本銀行二七番目の支店として開設され、今年で六五周年を迎える。

山口県での支店設置は、後に日銀総裁や総理大臣を歴任した高橋是清(これきよ)を初代支店長とする西部支店(明治二十六年(一八九三)赤間関市(現下関市)に開設)が、明治三十一年(一八九八)に門司に移されて以来、半世紀ぶりのことで、日本銀行の支店が一度町を離れ、再び帰って来た稀有な事例である。

開業当時の建物は旧下関税務署庁舎を引き継いで増改築を施したものであった。今回表紙絵に掲載した現在の店舗は、昭和五十年(一九七五)に完成し、今日に至っている。建物は鉄筋コンクリート造り、外壁に張られた窯変タイル(ようへん)(注)が青空にオレンジ色に映えて美しい。

(注)釉(ゆう)が溶けるときの窯の焼成温度や酸素の量の違いにより、表面に変化の表れたタイル。



表紙・画 北村公司